

## 海外留学先から

### 海外へと飛び出してみよう

(東京薬科大学機能形態学教室) 大谷 嘉典

#### 留学まで

私が現在のラボに移籍したきっかけは、もともと留学をしようと決めており、大学院生の研究で行っていたミクログリアや免疫系の研究をしている lab がいいと思い、様々な論文を検索し、探している時にカリフォルニア大学リバーサイド校の Monica Carson 博士の研究に興味をもった。彼女は中枢神経系におけるミクログリアの活性化とその炎症反応を解析している第一人者として知られており、現在までに中枢神経系におけるミクログリアと炎症時に脳に浸潤したマクロファージの遺伝子発現の違いによって両者を単離することや、正常時の脳でのミクログリアの活性化の重要性、ミクログリアと T 細胞の関係など多くの新しい知見を見出してきている。そんな彼女のミクログリアの神経細胞毒性と神経細胞保護の機序を明確にすることや生体内でミクログリアと脳に浸潤したマクロファージを操作することによって疾患の発症や進行を防ぐことができるかどうかを明らかにすることといった研究に惹かれ、連絡を取ろうと思い、当時大学院生だった私は研究室の教授に相談した。始めは普通に自己 PR メールや CV を送ろうと思っていたが、私が次に参加する学会である International Society for Neurochemistry の Council を務めていることがわかり、そこでインタビューを受ければ一石二鳥じゃないかとの御達しを受け、メールと CV を送った。幸運なことにその後すぐに返信を受け取り、私のポスター発表後にインタビューを受けることが決まった。ポスター発表当日ポスターどころではない私は緊張の渦の中にインタビューを受けた。不慣れな英語で2年間ではどうやっても中途半端な結果で終わってしまう可能性が高いから3年間いるという条件なら受け入れるという返事を頂き、どうにか初めての英語のインタビューを切り抜け、留学が決まった。

#### ラボライフ！ in California

学位取得からおよそ1ヶ月後、飛行機で約10時間かけてロサンゼルス空港に到着した私は、迷いながらも事前に調べておいた電車に乗り込みおよそ1時間半でリバーサイドに辿り着いた。リバーサイドは日本の皆様には馴染みの薄い地名というか知らない方が多数だと思う。その場所はアメリカ西海岸のロサンゼルス東部に位置し、ロサンゼルスとサンディエゴといった大都市から車で一時間程度で行けるのでさほど交通の便は悪くなく、物価も安いので快適に暮らせる。そんな田舎のおかげか、学生が夜歩いても大丈夫なくらい治安がいい場所である。またカリフォルニア大学のお膝元であるので日本を始めとするアジア系や中東の留学生が多く、多国籍な店が立ち並び、多くの学生がコーヒーショップやカフェで勉強している姿が見られる。加えて、天候は夏は湿度が低くカラッとしていて、冬も気温が15度くらいとさほど寒くなく、非常に過ごしやすい気候である。雨も一年間で10日ほどほとんど降らず、スポーツ等をやる方にとっては天国と言っても差し支えなく、実際に隣のラボの日本人の先輩は毎週サーフィンをやりにビーチまで通っていた。

カリフォルニア大学リバーサイド校はカリフォルニア大学10校のうちの1つであり、2012年には医学部が約40年ぶりに開設され、基礎研究とともに臨床研究にも力を入れ始めており、研究をするのには



一片の曇りもない青空とカリフォルニア大学リバーサイド校のシンボルベルタワー。



Carson's Lab 御用達の restaurant “salted pig” にて下段一番右が筆者で下段一番左が Dr. Monica Carson.

表するといったセミナーもある。また日本とは異なり lab 同士の垣根が非常に低く、様々な背景を持つ研究者と discussion をする機会が多いので、研究が思わぬ方向に進み、共同研究をするといったことも珍しくない。アメリカのそのようなフットワークの軽さは本当にいいものだと私は思う。

私がカリフォルニア大学に着いてからの Monica の第一声が「明日 Joint lab meeting (複数の lab で行われる meeting) で発表してね」だった。寝耳に水の状態だったが、時差ボケで眠い目をこすりながら発表資料を作成した記憶がある。そんな無茶ぶりをする Monica だが基本的に穏やかな人であるが、一旦火がつくとマシンガンのように会話をし、meeting やセミナーが延長したことは数知れずである。そんな Monica の人柄か、Monica は様々な役職についており、知り合いが多い。そういうところも見習いたいと思う。そんな我が Carson's Lab はポスドク 2 人、大学院生 2 人と大学生 4 人と小さい lab であるが、皆やる気が高く、ポスドクはもちろんのこと大学院生や大学生のプレゼンテーションはとても上手であると感じる (日本人もぜひ見習ってもらいたい)。Lab outing (飲み会的なもの) も頻繁に行われ、lab メンバー同士の交流も積極的でいつも賑やかに過ごしている。

アメリカでは祝日には大きなパーティーが催されることが多い、特にクリスマスには Monica の家で毎年ホームパーティーが催される。豪勢な料理とお酒そしてダンスパーティーに圧倒されたのも良い思い出だ。

### 留学の感想

大学時代の私を知る学友は私が英語が不得意であるということを知っている、「まさか本当に留学するとは…」と帰国するたびに会う人会う人に言われる。事実、留学した当時は英語をほとんど喋れず、meeting でも思うような discussion ができずに不甲斐ない思いをしてきたが、数ヶ月英語圏の環境下に置かれると、耳が慣れたのかなんとなく聞き取れるようになってきたのがとても嬉しかったのを今でも覚えている。この時思ったのがまさに習うより慣れろである。日本でも英語の勉強は少し行っていたが、本場にきてからの成長率はすごいと私は思った。また英語の上達を除いたとしても留学はいいものだと思う。それは私がこの留学で本当に多くのことを学べたと思っているからであり、研究に対する考え方

や恩師・仲間と出会うことができた。始めは色々な先生方や先輩から日本で職を探して、その後留学したほうがいいのではないかとアドバイスを受けたが、今思えば早めに留学をして本当によかったと思う。留学の経験は月並みだが私の素晴らしい財産になっていると自負できる。最近では日本人の留学が減少しているとの報告があるが、私はぜひとも留学をしてもらいたいと思っている。もちろん楽しいこともそれと同じくらい楽しくないことも起こるだろうがそれも留学の醍醐味だと思って日本人にぜひとも世界に飛び立ってほしい。

最後にこの場をお借りして、今回このような留学体験記を書く機会を与えて下さいました澤本和延先生、またお世話になった諸先生方、並びにご支援くださりました上原記念生命科学財団に感謝の気持ちを申し上げます。